

名作でつづるフランス絵画

トゥール美術館展



フランソワ・ブーシェ
「狼から逃げるシルヴィア」1756年

1994年11月11日(金)~12月11日(日)

開館／午前9時～午後5時(入室は午後4時30分まで) 初日は午前10時開展
金曜日は午後7時まで開館(入室は午後6時30分まで) 月曜日休館

高松市美術館 高松市紺屋町10-4
TEL (0878) 23-171

入場料／一般900円・高大生600円・小中生300円 (団体20名様以上は2割引)

主催／高松市美術館・読売新聞大阪本社・西日本放送株・美術館連絡協議会
後援／外務省・文化庁・フランス大使館・香川日仏協会
協賛／花王株 協力／日本航空・日本通運

du XVII^e au XIX^e Siècle

パリから南西に約235キロ、フランス最長のロワール河がゆったりと流れ、「シャルダン・ドゥ・ラ・フランス(フランスの庭)」と讃えられるロワール河中流域の中心地トゥール市が高松市と姉妹都市縁組を結んだのは1988年のことです。この美しい町はまた、ロワール岸辺の古城めぐりの拠点でもあり、歴史的抒情と自然を求める多くの人々を魅了しています。町の中心に復興された古い町並み(ヴュー・トゥール)は活気つき、荘厳な姿を残したサン・ガシヤン教会や隣接した美術館など、市民が誇りとするトゥールの顔をあちこちで覗くことができます。

そのひとつトゥール美術館は、古代ギリシヤから20世紀のアメリカ彫刻まで、西洋美術史を彩る名作を所蔵する美術館としてよく知られています。17世紀前半に大司教の邸宅として建てられた建物には、1789年のフランス革命によって押収された美術品が集められ、これに端を発したコレクションを基盤として、また国家からの寄託作品も加わって次第に一大コレクションを形成してきました。

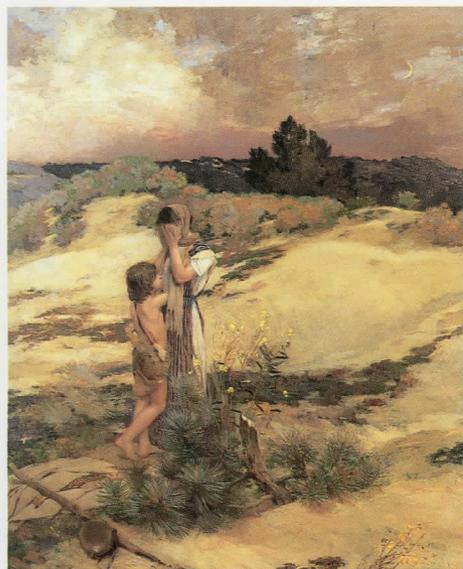
日本で初めて開催される本展は、この豪華なコレクションの中から、17世紀から19世紀までのヨーロッパ美術の流れを主にフランス絵画を中心に紹介していきます。荘厳華麗なバロック様式から静謐で厳格な古典主義様式、ロココ時代の優美繊細な宮廷美術、19世紀のオリエンタリズムやサロンの画家たち、そして印象派まで、選りすぐった80作品を展覧します。ロワール河からの秋風を本展にのせてお届けします。



ル・シュール「聖女たちに介抱される聖セバスティアヌス」



ドゥマシー「トゥール景観図」1787



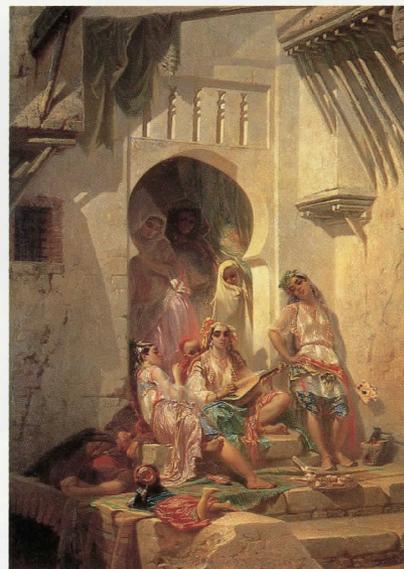
カザン「アガルトとイシマエル」1880



トガ「マンテーニャの磔刑」による模写」1861



マルタン「復活の日のミサの終わり」1915



ジロー「アルジェの女たち」1859

記念講演会

「3世紀で綴るフランス美術」

野口 栄子(美術史家・関西学院大学教授)

日 時/11月13日(日)午後1時30分から

場 所/高松市美術館講堂

入場料/無料(先着200名様)

第4期常設展のお知らせ

・展示室1 **【女性】という物語**

・展示室2 **【讃岐漆芸】幕末～明治～大正**

1月8日(日)まで

催し物のお知らせ

・ミュージアム・コンサート
「フランス音楽の夕べ」

日 時/11月24日(内) 開 演/午後6時30分

場 所/高松市美術館エントランス・ホール

入場料/無料(ただし入場整理券が必要)

・シネマテーク
「映像の魔術師」

日 時/11月26日(土)・27日(日)

場 所/講堂

入場料/各プログラム500円

・ミュージアム・ライブ
「ガムラン音楽」

日 時/12月3日(土) 開 演/午後6時30分

場 所/高松市美術館エントランス・ホール

入場料/1,300円